

# 寒川茶道同好会

呈茶席 11月3日(金) 寒川町民センター

同時開催中の他団体の皆さんにもお茶席にお招きし、皆さん楽しんで頂けたのではと思います。



一枚、撮らせて頂きました。



盆栽会のメンバー  
野立て風の盆栽展会場  
の件で、来年、茶会との  
コラボの相談。



## 色々の茶碗が登場



もみじ饅頭 (菓子)



## 寒川茶道同好会

呈茶席 11月3日（金）寒川町民センター

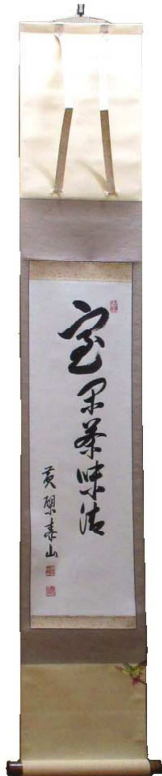
狭い空間ですが、全椅子席とし、効率よくお茶会を楽しむことができました。



お菓子は赤穂の塩饅頭



舟の帆に見立てた盆  
お茶は、ほうじ茶を焙烙で  
炒った茶葉。



# 菊花展（寒川町菊花会）

11月1日（水）～5日（日）寒川町民センター  
盆養三本、ダルマ、福助、切り花などの展示

切り花



国華八十年 国華八十年の滴 彩胡栄華 国華の幸 国華秋舞台 富士の新雪

盆養の部



太管／泉郷情熱 間管／彩胡優美 細管／聖光紫玉



手前 スプレーギク（ボンボン菊・野紺菊・スプレー白赤・・・など）

盆養



厚物／富士の輝き 厚物／国華栄華 厚物／彩胡栄華

# 盆栽展（寒川町盆栽会）

11月4日（土）～5日（日）寒川町民センター  
盆栽の展示、整枝、整形の相談



鈴木 忠 / 赤松・ギボウシ



菊地 守 / 老爺柿・カマズミ



斉藤 靖一 / 真柏・赤松・ウメドモキ



宇屋野 拓 / 梅擬・深山辣韭



阿諏訪 信夫 / 五葉松・イワオモダカ



日尾 政喜 / 黒松・ノコン菊



阿諏訪 信夫 / 赤松・イワオモダカ



三澤 務 / 寒ぐみ・石



石浜 太古 / 五葉松（瑞祥）・寒ぐみ



肥田 俊信 / 山柿・野紺菊



小島 宗一 / ルビーサンザシ・黒柿



三澤 務 / 五葉松・ホトトギス



肥田 俊信 / ビラカンサス  
ーオツルマサキ

# 盆栽展（寒川町盆栽会）

11月4日（土）～5日（日） 寒川町民センター

盆栽の展示、整枝、整形の相談



石浜 太古 / カエデ・五重塔・ススキ



宮下 洋 / さつき（大盃）・つわぶき



川島 松三 / 黒松・オンパコ



遠藤 臣哉 / さつき（大盃）・紅チガヤ



岸 貞夫 / さつき・ツメレンゲ



鈴木 政江 / ピラカンサ・大文字草



川島 松三 / 五葉松・イワシバ



伊熊 千恵子 / チリメンカズラ・大美カイドウ



エントランス



野立て風のお休み処

# 手工芸展（寒川町手工芸愛好会）

11月11日（土）・12日（日）寒川町民センター

## はり絵



三澤朝江



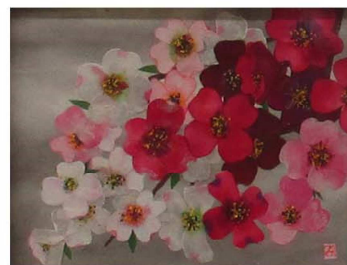
中村和子



中村和子



三澤 朝江



佐和橋ミドリ



高橋多賀江



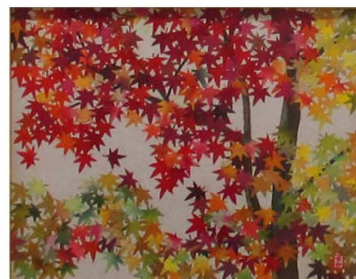
甲賀アイ子



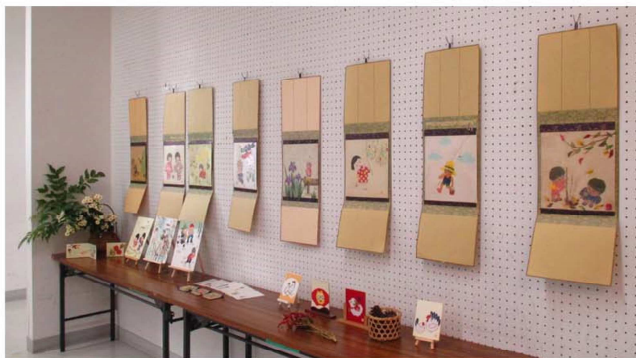
高橋多賀江



佐和橋ミドリ



甲賀アイ子



掛け軸（「たとう」に色紙をセットしたもの）



色紙（普通サイズ）



上、ハガキ 下、コースター



ミニ色紙



# 手工芸展（寒川町手工芸愛好会）

11月11日（土）・12日（日）寒川町民センター

## ロマンドール



実習 写真右のドールの胸元の装飾（花）をカラー粘土で創作。



実習用に事前に準備されたドール。



完成品

実習は限られた時間でロマンドールを体験してもらうため、粘土で小物の装飾品を制作し、用意されたドールに装着して完成、照明可。



三沢朝江 増子清美



三沢朝江

増子清美



増子清美



三浦和枝



高橋和子



入澤多恵子

# 手工芸展（寒川町手工芸愛好会）

11月11日（土）・12日（日）寒川町民センター

## パッチワーク

- 文化出品参加者
- 堀美代子 小嶋 馨子
  - 飯塚 公子 丹治 雅子
  - 山本 親子 足田 良子
  - 寺本 美弥子 佐々木 桂子
  - 西生 文子 金子 あや子
  - 中村 節子 戸谷 孝子
  - 小林 みや子 河野 光子



# 華道展 (寒川華道協会)

11月11日(土)・12日(日)



げっかやばざ  
りんどう  
カーネーション  
ドラセナ

マンサク  
リンドウ  
トルコキキョウ  
小菊  
ビベリカム

松本 美智子



うめもどき  
八重のゆり  
リンドウ  
ビベリカム  
がまのほ

江藤 多美子



小原 美子



シンビジューム  
木犀  
花水木枯木

宮内 奏詠



紅翠  
百合  
ポケ  
マユミ  
ピンポン菊  
ビベリウム

亀山 文子



グニューカリ  
ピンクッション  
オレンジ  
ジニーム  
ビベリカム

徳江 道子



セツカヤナギ  
フワセントウワタ  
ダリア  
リリダコ  
フェイジョア

小澤 得津喜



柳  
ダリア

宮内 夏藍



斑入りうつぎ  
菊  
カーネーション

梅原 のぞみ



シモツゲ  
ガーベラ  
かすみ草  
ユーカリ

ドラセナ  
ハワイアン  
フラック  
アレストロメリセ

粉川 紗愛



井上 晃基

井貫 晃基



斑入りうつぎ  
赤デイスバトマム  
りんどう  
ポリシヤス

梅原 明李



トナセナ  
ハワイアン  
フラック  
TOYOCOMAN  
スルストロメリセ白  
カーネーション

井貫 有希



涼風ハロウ  
グラスオ  
ウスプレー菊

梅原 拓巳



斑入りうつぎ  
菊  
カーネーション

梅原 のぞみ



柳  
菊

宮内 洋子

## 野ばら文化会

## 2023年度「短歌」作品



杉本 照代先生 山根 喜美代 土屋 トミ子 宮治 友美恵枝 二宮 昭雄 徳江 道子 清水 洋一 小林 篤子 亀山 文子 稲垣 武子 平野 良三

そびえ立つ富士をながめつ感無量この地に住みて六十余年  
素晴らしき夕焼け空に合掌すこの安らぎは老いて知りたり  
大木にまつわり伸びる罵や藤命分け合うごとき森林  
うつむきて何を悩むか白い花香に咲きたるクリスマスローズ  
三人の娘ら皆嫁ぎ今年また出さずじまいのひな人形

稲垣 武子

周辺にほこり立てぬよう植えし木をばつさり切られがくせんとす  
境え木の三十余年経ちしちくせいはいつしか切られ無残となりぬ  
人任せ許せぬ夫はあきらめて庭木の手入れ眺める身となり  
ぼさぼさの枝を整えスツキリと涼しげな庭心相みぬ  
木登りの得意な健ちゃん造園士親子揃って立派な姿

亀山 文子

キラリ朝日玄閑窓に反射するさあ出発だ 午前の六時  
枯れ草の下より出る「リュウキンカ」黄の花艶か香を呼ぶなり  
窓辺には優しく香る百合の花病の友に届けとばかり  
菜の花の群れと笑顔の友の顔足下に海の城山の丘  
青空に新緑映える公園に新一年生の歓声ひびく

小林 篤子

アジサイの色あざやかな雨の午後道行く人の傘もカラフル  
お互いの老いを気づかい妹とのやつと叶いしランチタイム嬉し  
頑張るに相反しての虚しさは消すに消せない遠い思いで  
百七年ぶり二回目の優勝慶応高校陸の王者に惜しみなき拍手  
携帯を開くに笑顔の結翔君私の励みとなり嬉しき

山根 喜美代

しんしんとコントラパスの如く降る窓から眺む銀河の世界  
寒に耐え甘き増しつ春向かう葱も坊主の修行に入りぬ  
冬風票を集める政ごと馴れ合うお金哀れ無策ぞ

亡き妻にちまき供えて一人食う耳底にさわぐ子供らの声  
晩秋や五百羅漢おおき耳巷の物議聞くや聞かぬや  
鰯雲海の彼方に連なりて烏帽子の岩の凜と清敷くしく

清水 洋一

梅の木の日当りに止まる小鳥二羽かわいしくさ何啄むや  
恒例の新年会に招かれてメのピンゴで一位となりぬ  
欄干で見る池の鯉あまたいて人の気配に口バクバクと  
小さめの秋茄子五箇を素揚げしてたれに漬け込み夏バテ防止  
秋咲の濃き青色のクレマチス小振りながらも気品漂つ

徳江 道子

子供の日鑑兜にこいのぼり飾りし頃の思い出深し  
畑の土地耕転汗流す背からムクドリ追いかけてくる  
盆過ぎもミンミンゼミやアブラゼミ我遅れじと大合唱よ  
中秋の満月仰ぎ思い出す亡き父母はらから誰彼のこと  
傘寿すぎスピードアップしたのかと思いたくなる過ぎ行く速度

二宮 昭雄

岩手より孫の動画を送りくれし娘と「スマホ」に頭を下げし  
十年に一度の寒波と暖冬ゆ吾花粉症にデビューせしかも  
娘らが父の日祝い送りくれし青のTシャツと孫の動画を  
口数の減りゆく吾に「私だよタエ子だよ」叫びし病みおる妻よ  
「コロナ禍」と騒いだ後に台風と地震ミサイル飛来と息付く暇なし

平野 良三

旅先のひなびし寺の本堂に吊し雛飾り数多下がりし  
病む友を乗せし車椅子押す私の元気に動ける日々感謝よ  
クレマチス乙女椿に蔓這わせ二十の花が一斉に咲く  
卯年月山参れば十二年ご利益続くを信じつ巡る

宮治 友美恵枝

ご神体は温泉湧き出る巨大岩素足で登る手すり頼りに  
(湯殿山神社)  
座蒲団に休まるめてぐつすり寝る九ちゃん吾の愛猫  
ブラレールところせましと家中に電車走らせ孫上機嫌  
孫達と散歩すること「こんにちば」会う人達にあいさつが出来

土屋 トミ子

菜の花がみごとに咲きて川の土手自然の中へすいこまれるよ  
満月が最大にみえくつきりとスーパームーン西のあなたへ

杉本 照世

立春の夜の天心ゆ満月の澄みてやさしき光の雫  
日にすきてうす桃色の猫の耳良き事をのみ聞きてあれかし  
大、小のとかげつれ立ちゆるると少しあわてて草生に消ゆる  
ちゅびちゅびちゅび朝のまだきに鳴く鳥の声の可愛ゆくただ聞きてをり  
金木犀のほひただよう路地を吾は行きつもどりつ一人し歩む  
野を遠く歩みきたりて相模川河口に立ちて入日みてゐる  
庭に立ち吾が身を三めぐり黄揚羽の不意に大空目ざし消えたる

